



## 医師会が一体となって 「国民医療」を守る

明けましておめでとうございます。令和2年の新年を迎えるにあたり、一言ごあいさつを申し上げます。会員の先生方におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。また、去年は本会の諸事業にご支援、ご協力をいただき感謝を申し上げます。

近年は地球温暖化の影響を受けて毎年のように大きな災害に見舞われ、去年も大型台風・大雨の影響によって広範囲に甚大な被害が発生し、多くの尊い命が失われました。このような災害が繰り返されないよう願うばかりですが、私達はただ自然災害の脅威に怯えるばかりでなく、地球規模での温暖化を招いている二酸化炭素排出の削減に向けて国際社会の一員として、できる、できないではなく、覚悟を持って取り組まなければならない課題だと災害を契機にあらためて痛感いたし

ました。今年は約半世紀ぶりに再び東京でオリンピック、パラリンピックが開催されます。年々厳しくなる酷暑によるマラソンや競歩選手への健康被害に配慮して、開催地が変更となる予期せぬ事態もございましたが、冷静に選手や観客の健康をどう守っていくかを考えれば、なぜ酷暑期間中に開催しなければならないのか大いに疑問で、オリンピックの商業主義的な側面も垣間見え、選手が犠牲になっているように思えます。

さて、今年は、いよいよ社会保障制度改革の議論が本格化し、政府の基本方針、具体的施策が6月の「骨太の方針2020」に反映されます。団塊の世代が後期高齢者となり始める2022年以降の社会保障費膨張、更には団塊ジュニア世代がすべて65歳を迎え、かつ現役世代人口が急減する2040年を見据えて、給付抑制と負担増を狙った改革メニューが目白押し



大阪府医師会長  
**茂松 茂人**



の状況にあります。このままでは、特に高齢者にとっては非常に厳しい改革が待ち構えていると言わざるを得ません。こうした中、日本医師会においては横倉義武会長を先頭に、時に政権と対峙することもいとわず、負担増が患者の受診抑制につながると警鐘を鳴らすとともに、社会保障の充実によって国民不安を解消することが重要であると強調してこられました。今後もこれまで築き上げてこられた政治力を最大限に発揮し、制度の改悪を阻止していただくことを切望しますし、私どもも社会保障が後退することのないよう日本医師会を全力で支えてまいりたいと考えております。

昨年開催されたラグビーのワールドカップでは、ワンチームのスローガンの下、チームがひとつになって見事な成果をあげました。今、我々医師会に求められることも同じで、

少くも意見の違いがあっても組織が一本となって、国民の立場に立って、国民に理解される、しっかりとした政策提言を行い、社会保障としての医療を守ることは当然のことながら、地域医療の衰退に歯止めをかけ、国民のすべてが安心して安全な医療が公平に受けられるよう、引き続き努力していくことであります。会内においても課題が山積していますが、適切に取り組んでまいります。

今年も日本医師会と連携し、与えられた使命を果たしていく所存でありますので、会員の先生方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。会員ならびにご家族、職員の皆様方が今年1年ご健勝でご活躍されることを心より祈念申し上げます。



新年のごあいさつ

## 医師会と10年



大阪府医師会 副会長

澤 芳 樹

皆様、新年おめでとうございます。茂松茂人会長の下で副会長と勤務医部会長を務めさせていただいております、澤芳樹でございます。大阪府医師会の中であって、大学勤務医師の立場として、地域連携や人材育成、先進医療・高度医療や国際貢献の面から、府医に少しでもお役に立てればと思っております。こういう形で府医の副会長を仰せつかってから早いもので10年となり、在任10年日本医師会代議員として、このたび日医より、優功賞を受賞させていただきました。これもひとえに、茂松会長をはじめ、医師会の先生方のおかげです。先生方には本当にお世話になるばかりですが、今後も勤務医部会の発展や学術的貢献、働き方改革、研修医専門医制度等に少しでも貢献できればと思っております。

もとより、大学の医師や研究者も、地域医療に携わる医師も、国民により良い医療を提供し、国民のヘルスケアを充実させようとするミッションは同じであります。私は、先端医療が大阪の将来の発展を切り拓き、国際貢献などにより世界に発信していくための大き

な鍵を握っていると信じております。AI医療、ゲノム医療やiPS細胞による再生医療などにより、これからの10年間において、医療の更なる発展が期待されております。しかしそのためには、まず国民皆保険を通じて国民医療を守り発展させていくという医師会の大きな役割が重要で、更に、医学部がある府下5大学や行政との連携を一層深め、相互理解の中で、府民に国民に世界最高レベルの医療を提供していくことが重要と認識しております。

これまで、私が医師会でお役に立てることは、学術的な業務や、勤務医部会の発展、研修医・専門医への対応や勤務医の労働環境などが中心かと考え、活動してまいりました。大学人として勤務医として、今後もコミュニケーションを大切にさせていただきたいと思っております。

今年も少しでもお役に立てるように頑張りますので、なにとぞよろしく願いいたします。



## 地域医療構想、地域包括ケアの 深化・推進



大阪府医師会 副会長

中尾正俊

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様方には、ご家族とともにご健勝に新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

我が国の人口は、2010年には1億2,800万人台に達しましたが、それ以後は人口減少社会に突入しています。今後は、更なる「都市化」と地方の「過疎化」が進展し、都市化社会では、独居高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加します。更に、後期高齢者の増加により、日常的に医療・介護が必要な人や認知症高齢者等、生活に支援が必要な人が増加します。「高齢者の慢性心不全、脳血管障害、肺炎、骨折が増加する疾病構造の変化に向けて、地域の医療・介護サービスをどのように提供すべきか」についてしっかり議論していかなければなりません。

さて、昨年9月に具体的対応方針の再検証の要請対象となる公立・公的病院が公表され、大阪府では10の公立・公的医療機関が再検証を要する病院とされました。これにより、各病院へ通院されている患者さんや勤務

されている職員に、想像以上の混乱を招きました。更に、厚生労働省は、地域医療全体を見直す観点から、民間医療機関についても競合状況の可視化が必要と考えており、引き続き、国の動きを注視しなければなりません。

このように医療現場が混乱している中で、地域医療構想の推進に向け、各地域において病院連絡会、医療・病床懇話会、保健医療協議会での議論が本格化しています。特に、病院連絡会においては、各病院に対して、2025年に向けて検討している診療機能や今後の医師確保の見通しに関する説明が求められています。

最後になりますが、医療を取り巻く環境は、今後、ますます厳しくなっていくことが予想されますが、地域医療における地区医師会の役割は非常に重要です。地域医療構想の推進と地域包括ケアの深化・推進に向けて、執行部一同会務に励んでまいりますので、会員諸兄の更なるご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



新年のごあいさつ

## 医療費抑制策としての 患者自己負担増に反対



大阪府医師会 副会長

**高井 康之**

明けましておめでとうございます。令和最初の新年ですが、会員およびご家族の皆様におかれましては、良き新年をお迎えのことと存じお慶び申し上げます。

会員の先生方には、日々、世界に誇る国民皆保険制度の下で、国民医療を实践され、府民の健康増進に尽力されていることに感謝申し上げます。しかしながら、我が国の公的医療保険制度は万全とは言い難い状況が生じつつあります。少子高齢化の進展により、人口減少に向かいつつあることは、我が国の将来にとって大きな問題であります。とりわけ、支え手である現役世代の減少により社会保障財源が厳しくなることが予想されることから、政府はこれまでの社会保障システムの改善にとどまることなく、システム全体の改革を進めていくことが不可欠であるとし、全世代型社会保障検討会議を立ち上げて検討に入りました。ライフスタイルが多様化する中で、人生100年時代の到来を見据えながら、お年寄りだけでなく、子ども、子育て世代、更には現役世代まで広く安心を支えていくことが大事であるとして、年金、医療、労働、介護など社会保障全般にわたる持続可能な

改革を図る必要があるとしています。一方で、構成メンバーは経済界や経済学者などが中心で、医療や介護の担い手や受ける立場の代表が含まれておらず、給付の抑制や自己負担の強化の方向に向かうことが懸念されます。具体的には、現在は原則1割である75歳以上の後期高齢者の窓口負担の一律2割への引き上げや、外来受診時の定額負担上乘せ導入、市販品類似薬の保険適用外し——などが狙上に上がっています。公的医療保険制度は、傷病のリスクをみんなでも支え合うのが本来の目的であり、患者の自己負担の強化はその趣旨に反するものであります。このようなことが導入されると、受診抑制を招いて重症化してからの受診が増加し、かえって医療費を増加させたり、国民の健康被害にもつながりかねません。政府には賢明な選択をしていただきたいものです。そのために、日本医師会と協力して働きかけていきたいと存じますので、会員の先生方のご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

令和の時代が、会員、国民にとって幸せな時代となることをお祈り申し上げます。



## 様々な「備え」が大切



大阪府医師会 副会長  
**加納 康至**

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されますが、昨年のラグビーワールドカップを上回る盛り上がりが見込まれます。熱狂することを否定はしませんが、教育や医療といった社会的共通資本の充実こそが大事だということに気付いてほしいと思います。

担当分野では、今後の労働力不足を補う上でも、高齢者や療養中の人にもできる範囲で活躍願わねばなりません。既に始まっている「治療と仕事の両立支援」が更に重要になります。同時に、労働者の高齢化に伴う有病率の上昇と、心身機能や危機回避能力の低下は避け難いことから、労働者を守るための産業医活動や労災医療は今以上の充実・発展が求められます。

救急医療では、高齢化に伴う対応件数の増加が予想され、受け入れ困難例を含めた受け入れ先の確保や体制の充実が求められます。

災害医療では、昨年も自然災害が日本各地で甚大な被害をもたらし、今や災害列島と言っても過言ではない状況です。そんな中、南海トラ

フ地震だけではなく様々な災害への備えが急務となっています。地域医療構想の中での災害医療対策という視点も重要で、災害時の需用増大を織り込んだ地域医療構想が必要です。もちろん日常の訓練も大事で、日本医師会や大阪府医師会のJMAT研修を受けて役割分担を理解していただき、いざという時には、それぞれの働きが有効かつ機能的に発揮されるよう努力したいと思います。

昨年、看護専門学校では最後の戴帽式を行いました。この学生さんの全員を立派な看護師として送り出せるように努めてまいります。また、保健医療センターも設立当初とは変化したニーズに応えられるよう進化できればと考えております。

最後に、府医の仕事は増え続けていますが、会務が滞りなく遂行できるよう、庶務・経理の仕事をしっかり支えらるとともに、医師会の組織力強化も進めてまいります。

これからも会員の皆様のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。